

- 問1 奈良時代、743年に制定された「墾田永年私財法」では、それまでの「三世一身の法」で定められていた期限付きの土地所有ルールが大きく変更されました。この法令によって、新しく開墾した土地の所有権はどのような形で認められるようになったか、最も適切なものを選びなさい。
(2025年 大阪府公立入試 類似)
1. 子、孫、ひ孫の三代に限って認められる
2. 期限を定めず、永久に私有することが認められる
3. 開墾した本人の一代に限って認められる
4. 開墾から一定期間が経過した後は、再び国に返還される
- 問2 8世紀、奈良の平城京を中心に、仏教の力で国家を守ろうとする「鎮護国家」の思想に基づいた政策が行われました。この政策を推進した聖武天皇が行った内容として最も適切なものを次の中から選んでください。
(2016年 長崎県公立入試 類似)
1. 都に東大寺と大仏を建立し、全国の各地方には国分寺・国分尼寺を建てさせた。
2. 唐から鑑真を招いて唐招提寺を建立し、正しい戒律を広めることで国家の安定を図った。
3. 飛鳥の地に法隆寺を建立し、十七条の憲法を制定して役人の心構えを説いた。
4. 都を平安京へと遷し、比叡山に延暦寺を建立させて新しい仏教の普及を図った。
- 問3 律令国家の政治組織において、中央には神祇官や太政官が置かれていましたが、地方の九州には「大宰府」という特別な機関が置かれていました。この大宰府が、東アジアの国々に対して担っていた主な役割の説明として、最も適切なものを選びなさい。
(2018年 大分県公立入試 類似)
1. 農民から租・庸・調などの税を徴収し、中央へ送るための徴税の拠点としての役割
2. 各国の戸籍を作成し、土地の分配や裁判を管理する地方行政の拠点としての役割
3. 外国使節の接待などの外交や、大陸からの侵攻に備える防衛の拠点としての役割
4. 全国の国分寺を統括し、仏教の教えによって国家を鎮める宗教の拠点としての役割
- 問4 奈良時代に編纂された歴史書である『日本書紀』に、飛鳥時代の重要な政治的動向として記録されている事柄はどれか。
(2017年 山形県公立入試 類似)
1. 中大兄皇子による大化の改新の進展
2. 平将門が関東で朝廷に対し起こした反乱
3. 一遍が各地を巡り歩いた踊り念仏の様子
4. 桓武天皇による平安京への遷都
- 問5 古代の肥後国（現在の熊本県）から絹が都へ納められたことを記録した木簡が発見されています。このように、律令国家において地方の特産品を都へ納めさせた税の仕組みについて説明した文として最も適切なものを選びなさい。
(2026年 熊本県公立入試 類似)
1. 地方の特産品を都へ納めさせた税で、調と呼ばれる。
2. 地方の農民に年間60日を限度として無償で土木工事などを行わせた負担で、雑徭と呼ばれる。
3. 田の面積に応じて収穫した稲を納めさせた税で、租と呼ばれる。
4. 都での年間10日間の労役に代えて布などを納めさせた税で、庸と呼ばれる。
- 問6 663年の白村江の戦いで敗れた後、大和政権は大宰府を守るためにその周辺の防衛を強化しました。この時、大宰府の北側に築かれた、巨大な土塁と堀を持つ防衛施設を何と呼びますか。
(2017年 広島県公立入試 類似)
1. 多賀城（たがじょう）
2. 水城（みづき）
3. 鴻臚館（こうろかん）
4. 吉野ヶ里（よしのがり）
- 問7 奈良時代、聖武天皇は国分寺や国分尼寺を全国に建立し、東大寺には巨大な大仏を造営しました。このように、仏教の教えによって国家の平穏と安泰を願った思想を何と呼びますか。
(2015年 富山県公立入試 類似)
1. 浄土信仰
2. 鎮護国家の思想
3. 尊王攘夷
4. 本地垂迹説
- 問8 7世紀後半に起きた壬申の乱を経て、天皇を中心とする中央集権体制の整備が進められました。この過程で、遣唐使が持ち帰った唐の進んだ制度を参考に、701年に刑法や行政法としてまとめられ、律令国家の法的な基盤となったものは何ですか。
(2019年 徳島県公立入試 類似)
1. 十七条の憲法
2. 大宝律令
3. 御成敗式目
4. 武家諸法度
- 問9 奈良時代、相次ぐ疫病や政治的な混乱による社会不安を鎮めるため、聖武天皇が仏教の力で国家の安定を図ろうとした政策について述べたものとして、最も適切なものはどれですか。
(2021年 広島県公立入試 類似)
1. 下剋上の風潮を抑えるために、各地域の農民が中心となった寺院による自治を認めた。
2. 大陸から伝わった鉄器や青銅器の製造技術を独占し、全国の主要な拠点に工房を設置した。
3. 地方の治安を維持するために、全国の国ごとに守護を、公領や荘園には地頭を設置した。
4. 全国の国ごとに国分寺・国分尼寺を建立し、都には総本山として東大寺を建てた。
- 問10 8世紀初めの戸籍には、50代の戸主やその妻、20代の子どもから数歳の孫にいたるまで、家族構成と年齢が具体的に記録されていました。このように作成された戸籍に基づき、6歳以上の男女に与えられた土地と、その収穫に応じて課された税の組み合わせとして正しいものはどれですか。
(2023年 長野県公立入試 類似)
1. 公田を与えられ、租を負担した
2. 口分田を与えられ、庸を負担した
3. 公田を与えられ、調を負担した
4. 口分田を与えられ、租を負担した
- 問11 奈良時代、貴族や寺社が新しく開墾した土地を自らの私有地として成立させた広大な農園を「荘園」と呼びます。この背景には、自分で新しく切り開いた土地を永久に自分のものにすることを認める法律の制定がありました。その法律の名称として正しいものを選んでください。
(2019年 山口県公立入試 類似)
1. 班田収授法
2. 墾田永年私財法
3. 三世一身の法
4. 版籍奉還
- 問12 奈良時代の国際交流の様子を伝える資料として、東大寺には当時の宝物を納めた高床式の倉庫が残されています。この建物の名称と、そこに保管されている品々が示す当時の状況について説明したものとして、最も適切なものはどれですか。
(2019年 徳島県公立入試 類似)
1. 法隆寺（ほうりゅうじ）には、日本独自の風土や好みに合わせた国風の作品が多く納められ、貴族の生活の様子を伝えている。
2. 正倉院（しょうそういん）には、唐や西アジアの文化の影響を受けた工芸品が納められ、天平文化の国際性を今に伝えている。
3. 鳳凰堂（ほうおうどう）には、浄土信仰に基づく仏像が安置され、平安時代の武士の台頭による社会不安を反映している。
4. 唐招提寺（とうしょうだいじ）には、鑑真が持ち込んだ経典が納められ、遣唐使によってもたらされた仏教文化の広まりを示している。
- 問13 743年に「墾田永年私財法」が施行されたことにより、その後の日本の社会に現れた大きな変化として正しいものはどれか。
(2024年 静岡県公立入試 類似)
1. 経済力を持つ貴族や寺院が大規模な開墾を行い、のちに「荘園」と呼ばれる私有地が広がる原因となった。
2. 天皇による直接支配が全国の隅々まで行き渡り、武士という新しい階級が登場する余地がなくなった。
3. 班田収授の法がより厳格に守られるようになり、農民の間の貧富の差が完全に解消された。
4. 土地の私有化が進んだ結果、米で納める「租」の制度が廃止され、全ての税が貨幣で納められるようになった。

答え合わせ・解説

問1	答え 2 期限を定めず、永久に私有することが認められる	奈良時代中期、人口の増加にともなう食糧不足を解消するため、政府は土地の開墾を奨励しました。723年の「三世一身の法」では、開墾した土地の私有を三代に限定して認めていましたが、期限が近づくとも人々が土地を放置する問題が発生しました。そこで743年に「墾田永年私財法」を制定し、開墾地の所有権を期限なしで「永久」に認めることにしました。これにより開墾が促進されましたが、一方で貴族や寺社が広大な私有地（初期荘園）を形成するきっかけとなり、公地公民の原則が崩れる要因となりました。
問2	答え 1 都に東大寺と大仏を建立し、全国の各地方には国分寺・国分尼寺を建てさせた。	聖武天皇は、当時相次いでいた大規模な地震や天然痘の流行、政治的な混乱などの社会不安を仏教の力によって鎮め、国を守ろうと考えました。この思想を具現化するため、中央（平城京）には総国分寺としての役割を持つ東大寺と本尊の大仏を造営し、地方の各国には国分寺と国分尼寺を配置するネットワークを整備しました。
問3	答え 3 外国使節の接待などの外交や、大陸からの侵攻に備える防衛の拠点としての役割	九州は地理的に大陸や朝鮮半島に近いため、大宰府は単なる地方行政機関としての機能だけでなく、唐や新羅からの使節を迎え入れる「外交」の窓口としての役割を果たしました。また、白村江の戦いでの敗北後などは、大陸側からの攻撃を想定した「防衛」の要としての機能も極めて重要視されました。
問4	答え 1 中大兄皇子らによる大化の改新の進展	『日本書紀』は720年に完成した、神代から持統天皇までの出来事を漢文で記した正史です。中大兄皇子（天智天皇）らが蘇我氏を倒して着手した大化の改新は7世紀の出来事であるため、この書物の記録対象に含まれます。一方、平安京遷都は8世紀末、平将門の乱は10世紀、一遍の活動は鎌倉時代であり、いずれも書物の完成以降の出来事であるため記述されていません。
問5	答え 1 地方の特産品を都へ納めさせた税で、調と呼ばれる。	肥後国から絹が納められた木簡の記録は、地方の特産品を都へ納めさせる「調」の制度を示しています。稲を納める「租」や労役に代わる「庸」とは負担の内容が異なります。
問6	答え 2 水城（みづき）	白村江の戦いでの敗北後、唐・新羅連合軍の侵攻を恐れた朝廷は、九州の防衛を急ぎました。外交・行政の中心地である大宰府を守るため、その北側に「水城」という大規模な堤防（土塁と堀）を築き、さらに周囲の山々には大野城などの朝鮮式山城を建設して、防衛体制を整えました。多賀城は東北地方の拠点であり、鴻臚館は外交使節の宿泊施設です。
問7	答え 2 鎮護国家の思想	聖武天皇の時代、疫病の流行や政治的な混乱、大地震などの社会不安が続きました。当時の人々は、仏教の力によってこれらの災いから国家を守り、秩序を取り戻そうと考えました。天平文化における仏教建築や仏像の造営は、この思想を背景として国家規模で進められたものです。
問8	答え 2 大宝律令	天武天皇が壬申の乱に勝利したことで天皇の権威が高まり、その後の文武天皇の時代に唐の律（刑法）と令（行政法）を手本として制定されました。これにより、日本は法に基づく組織的な国家運営を行う「律令国家」としての形を整えました。遣隋使ではなく遣唐使による交流が、この法典の完成に大きな影響を与えています。
問9	答え 4 全国の国ごとに国分寺・国分尼寺を建立し、都には総本山として東大寺を建てた。	聖武天皇は、仏教の教えによって国を護る「鎮護国家（ちんごこっか）」の思想に基づき、社会の混乱を収めようと考えました。その一環として、741年に「国分寺建立の詔（みことのり）」を出し、全国の令制国ごとに国分寺と国分尼寺を建てることを命じました。また、都の平城京にはこれらの総本山となる東大寺を建立し、巨大な大仏を造立しました。
問10	答え 4 口分田を与えられ、租を負担した	律令国家では、班田収授法によって人々の生活基盤となる土地を割り当て、税を徴収する仕組みが整えられました。この際、土地を配分する対象を正確に把握するために「戸籍」が作成され、そこに登録された6歳以上の男女すべてに「口分田」が与えられました。これを受けた人々には、収穫した稲の約3%を納める「租」という税の負担が義務付けられました。
問11	答え 2 墾田永年私財法	それまでの公地公民の原則では、土地はすべて国家のものでしたが、人口増加による土地不足を解消するために743年にこの法律が制定されました。これにより、新しく開墾した土地の永代私有が認められたため、資金や労働力を持つ貴族や寺社が大規模な開墾を行い、私有地である荘園が各地に広がるきっかけとなりました。
問12	答え 2 正倉院（しょうそういん）には、唐や西アジアの文化の影響を受けた工芸品が納められ、天平文化の国際性を今に伝えている。	東大寺の正倉院には聖武天皇の遺愛品をはじめ、遣唐使が持ち帰った数多くの宝物が保管されています。これらの品々にはペルシャ（イラン）風の模様が施されたガラス器や、唐で作られた楽器などが含まれており、当時の日本が大陸との交流を通じて遠く西方の文化とも繋がっていた「シルクロードの終着点」であったことを象徴しています。
問13	答え 1 経済力を持つ貴族や寺院が大規模な開墾を行い、のちに「荘園」と呼ばれる私有地が広がる原因となった。	土地の私有が認められたことで、豊富な資金や労働力を動員できる有力な貴族や寺院がこぞって開墾を進めました。これが「初期荘園」の形成につながり、国家が直接土地と人民を支配する体制が徐々に形骸化していくことになりました。